



子どもたちのEQとこころの健康を育む アートと対話と通じた活動

一般社団法人As iZ

As iZの成り立ち



トゥインクル・ルドバーグ

カナダ・ケベック州にて
1993 年、「若者の暴力の連鎖を断ち切る」ために
LOVE (Leave Out Violence Everywhere) を設立。

Greater
than
anything



彼女の夫は 14 歳の少年によって命を奪われましたが、
彼女は「加害少年もまた暴力の被害者である」と気づき、
若者自身が暴力の連鎖から抜け出せる支援を作ることを決意しました。

非行少年を支援する小さなフォトジャーナリズム活動から、
カナダの 3 つの州で展開される若者のこころを育む支援プログラムへ。



一般社団法人As iZ代表理事

イングラム・柴田佐登子



カナダで30年以上、ソーシャルワーカーとして働き、LOVEの創設初期から現在にかけてLOVEをサポート。

「LOVEの青少年支援プログラムこそ、日本の子どもたちにとって必要」という強い思いから、2025年3月に一般社団法人As iZを設立。
2025年12月より、福岡を中心に、福岡・東京での活動をスタート。



As is = 「ありのまま」

As iZ ÷ AからZ

多様性を表現

「誰も置いていかない」

カナダ | マギル大学 フランコ・カルネヴァーレ教授

LOVEのプログラムアドバイザー。

LOVEに関する長年の研究を通じて、メディア・アート・プログラムが若者の心の健康に高い効果をもつことを示す論文を発表。

子ども・若者の「声」や意思、権利を尊重しながら、研究・教育・政策・実践につなげていく取り組みを行うチーム、「VOICE」の責任者。



慶應義塾大学精神神経科 精神科医 友田 有希先生

As iZのプログラムアドバイザー。

「居場所がない」と感じる思春期の若者は少なくありません。As iZは評価に縛られず自己表現し、自分を信じる力を育てるプログラムです。

As iZの取り組む社会課題

子どもたちが抱える生きづらさ

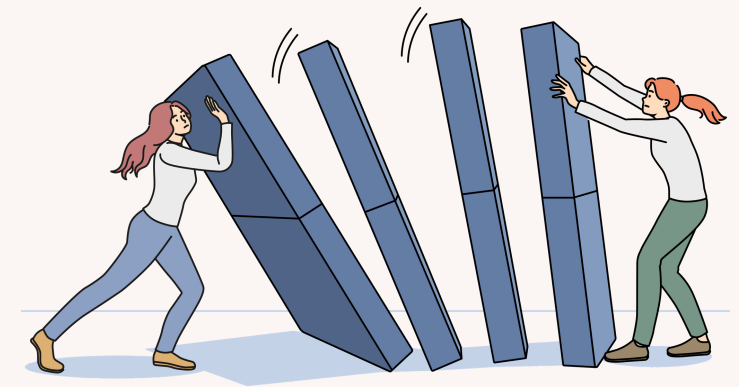
- 感情を上手く言葉にできない
- 怒りや悲しみが「問題行動」となって現れる
- 自己肯定感の低さ、「どうせ自分なんて」という諦め
- 安心して本音を話せる場や関係性の不足



「自分の感情をありのままに表現していい」機会や
「安心して自分を表現できる」こころの居場所、
「信頼できる大人との関係性」の不足

みなさんが子どものころ、
周りの目や評価を気にせず、
安心して自分を表現できる居場所は
どれくらいありましたか？

- 感情を上手く言葉にできない
- 怒りや悲しみが「問題行動」となって現れる
- 自己肯定感の低さ、「どうせ自分なんて」という諦め
- 安心して本音を話せる場や関係性の不足



「ありのままの自分でいい」

困難があっても、きちんと乗り越えていける力（レジリエンス）

自分らしく生きていく力

自分も他者も大切にしながら協働していく力

「どんな子どもを対象にしたプログラムですか？」

全ての子どもたちに必要なプログラム

- 学校現場
 - 児童養護施設
 - キャリア支援現場
 - その他様々な青少年支援現場
- etc...

As iZの活動内容

子どもたちのEQとこころの健康を育む
アートと対話と通じた活動

EQ（心の知能指数）

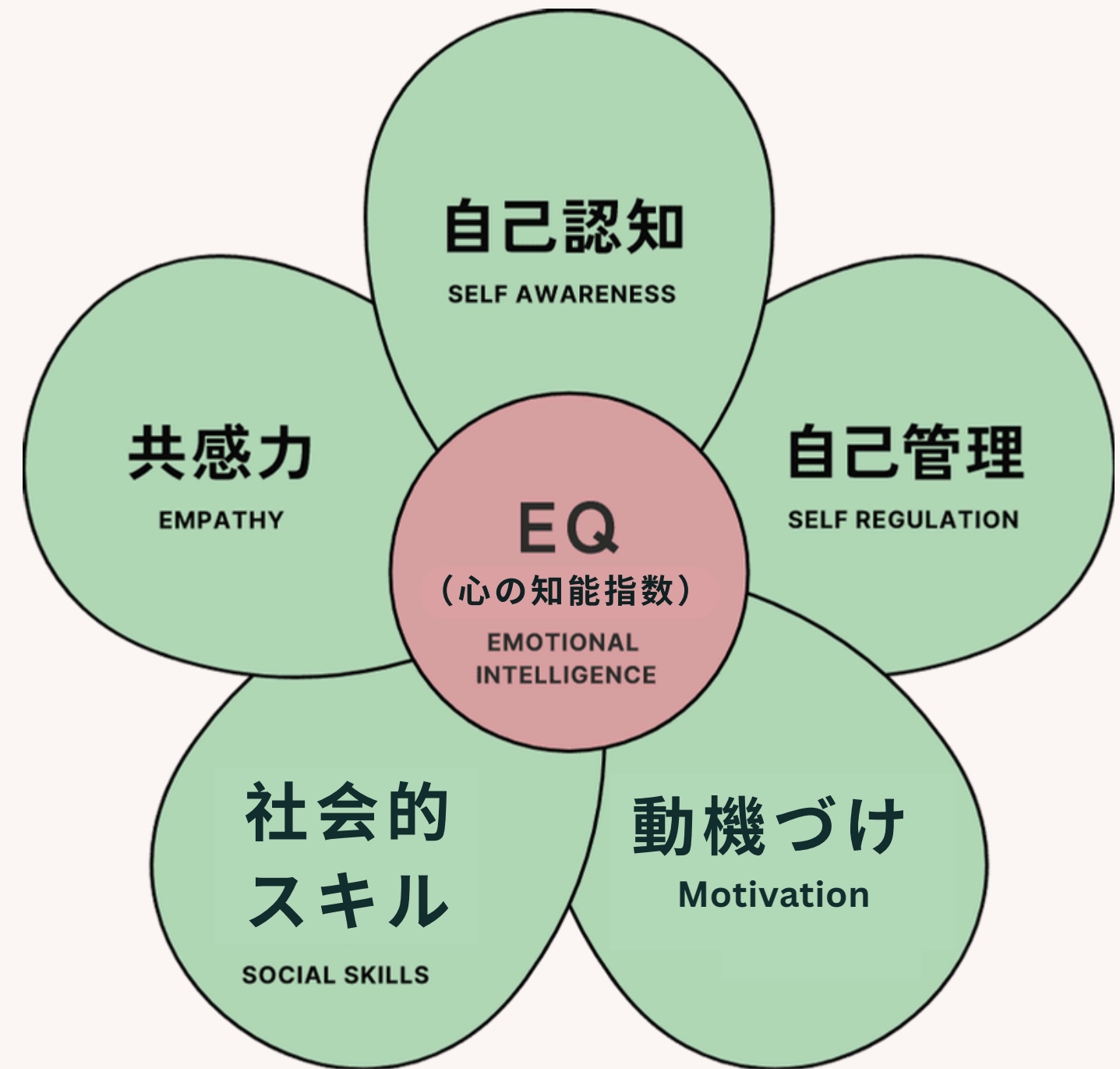
- Emotional Intelligence -

自分や他人の感情を理解し、適切に管理する能力。

EQを育てていると、自分の気持ちを
コントロールし、他者と良好な
関係を築くことができます。

またストレスの管理が上手になり、
困難な状況でも冷静に対応できます。

会社など**リーダーシップ**を求められる世界でも
EQはとても大切なスキルと言われています。





アート（写真） × ジャーナリング × 対話
メディア・アート・プログラム(MAP)



メディア・アート・プログラム(MAP)の特徴

- ① **楽しみながらEQ（心の知能指数）を高められる** 体験型ワークショップ
- ② アート（写真）を通した自己表現で、**誰もが気軽に**取り掛かれる
- ③ 評価・判断されない**安心安全**な環境
- ④ 楽しいアクティビティの中で、子どもの**危機的リスクやSOS**をキャッチ
- ⑤ **心の健康促進**の役割にもなる

カナダでの実績

92%

MAPを受講した生徒の**92%が高校を卒業**。（ケベック州の高校卒業平均は64%）

97%

MAPを受講した生徒の97%が「**LOVEのプログラムが自身に前向きな影響を与えた**」と回答。

→**学校に通い続ける、進学する決意等**

80%

卒業生の80%が、LOVEは**人生の困難を乗り越える助けになった**と回答

- 安心して自分の気持ちを話せる「**安全な居場所**」があったこと
- **困難に向き合い、対処するための自信やスキル**を得られたこと
- 必要なときに**社会的な支え（周囲からのサポート）**を得られたこと

① 学校教育と連携した中長期伴走型プログラム

② 地域とつながる体験型ワークショップ

①学校教育と連携した中長期伴走型プログラム

- 中学校・高校において、探究学習・総合的な学習の時間・キャリア教育・アートなどの一環としてプログラムを導入実施。
- 写真やアート、対話を通して、生徒一人ひとりが自分自身の価値観や感情を見つめ、多様な他者との関わりを学ぶ機会を提供。
- 参加生徒にとって「楽しい・リラックスできる」「ほっと一息できる」時間を提供。
- 楽しみながら必要なスキルを育む設計。



自分と向き合い、他者と関わる力、EQを継続的に育む

②地域とつながる体験型ワークショップ

- 児童養護施設、地域施設、地域団体、学校などと連携し、単日型のワークショップを実施。
- 写真やアート、対話を通して、普段とは異なる人や場所、価値観に触れ、自分と他者との違いや地域の新たな一面に気づく機会を提供。
- 「人と違っていい」「自分らしくていい」という気づきを、楽しみながら体験できる場をつくる。



新しい人・場所・価値観との出会い

As iZ × 中学・高校 パイロットプログラム

2026年5月～2027年1月（現在進行中）

合計約260名以上の中高生と、12週間～22週間にわたる中長期パイロットプログラムを
2026年5月～2027年1月まで実施中。

パイロットプログラム 協力校	対象学年	エリア	プログラム実施人数
高稜高等学校	高校2年生	北九州市	合計約 260名以上（/週）
南筑高等学校	高校3年生	久留米市	
荒木中学校	中学1年生	久留米市	
東明館中学校	中学2年生	佐賀県	

パイロットプログラムの目的

- 日本のユースに合った形へ。プログラムの文化適用 | ユースアドバイザー委員会 の設置
- ユースに本当に届くプログラムか検証する | 毎回のワークショップ後の評価アンケート実施
- 他校・他地域へ展開できる持続可能な支援モデルの構築

高稜高等学校 × As iZ パイロットプログラム

単日ワークショップ：高校一年生約180名

高稜高校の新入生名を対象に、お互いを知り、打ち解けるきっかけとなるワークショップを実施。

中長期プログラム：高校2年生27名

長期伴走型プログラムのパイロットクラスとしてワークショップを実施中。2026年5月から年明けまでの合計18回のプログラム設計。

ユースアドバイザー委員会の実施

「子どもたちの声を聴く」ことを目的に、プログラムを受講してもらった生徒の中から協力者を募り、As iZのアドバイザーとして、プログラムに対してフィードバックなどをもらう取り組み。



生徒たちからの感想・フィードバック

高校一年生：新入生アイスブレイクワークショップ（単日イベント形式）

私は人と話すのが苦手で自分の思っている事を言葉にして伝える事も出来ないけど昨日の活動を通して、緊張してても何か話題があれば誰かしらと話ができるんだなと思いました。人それぞれものの見方は違うからこそ、それぞれの良さがでた写真を撮るので「こんな風に自分とはちがうんだな」と沢山の事が知れました。

班のみんなが全員初めて話すひとだったけど、たくさん話して仲良くなれたと思います。テーマが難しかったけど、協力して写真をとったり、映えスポットを探しているときとても班のみんなが楽しそうで笑いあえたので良かったです。

生徒たちからの感想・フィードバック

高校二年生：評価アンケート・ユースアドバイザー委員会

チームになって写真を撮るのははじめてで、自分が思いつかないようなアイデアを教えてくれたり、一人では撮れない写真を撮ることが出来たので、とても楽しく活動が出来て良かった。

話しやすい雰囲気があって良かった。普段話さない人と話せてよかった。
多い課題をみんなで考えてカメラを通して友情を深めるきっかけになったので良かったと思った。

学校大変だから、As iZの活動が息抜きになっている。金曜は活動があるから、学校いこうってなる。

家に帰って、お母さんや家族にAs iZの活動で扱ったトピックについて話したり、聞いてみたりする。

Retalaboのみなさまに
お願いしたいこと

①共感してくださる方とのつながり

As iZの活動や、「**子どもたちのEQと心の健康を育む**」という**考えに共感**してくださる方をご紹介します。
学校・企業・地域・福祉・教育など、分野を問わず、一緒に活動できる仲間を探しています。

②「日本の子どもたちに合う形」を一緒に考える

カナダで生まれたプログラムを、日本の子どもたち・学校・地域にどう根付かせていくか。
「こんな場所でできるのでは?」「こんな企業と組めるのでは?」「北九州なら、こんな展開ができるのでは?」
皆さんの**経験やアイデア**をぜひ聞かせてください。

③活動を継続するための応援

プログラムを継続し、より多くの子どもたちに届けていくためには、
活動を支える**さまざまな形での皆様からの応援**が必要です。

場所・機材・広報・人材・ネットワークなど、一緒に考えていただけたら嬉しいです。

As iZと一緒に、
子どもたちがありのままの自分を表現できる、
こころの居場所を増やしていきませんか？

みなさんと、北九州からこの活動の輪を広げていけると嬉しいです。



一般社団法人As iZ

ご清聴ありがとうございました。

プログラム導入・お問い合わせ

5つの特徴

- プログラム導入のご相談・ご質問は、下記までお問い合わせください。
- イベント・プログラム実施にあたり、日程や時間、参加人数について打ち合わせをさせていただきます。
- その他、ご質問・不明点がございましたらお気軽にお問い合わせください。



一般社団法人As iZ

プログラムディレクター | 門前綾香 | hello@asiz.jp | 050-3032-5112



Website